

2007年度

科目名 ことばの科学A	対象学科・学年 文学部日文2回生 文学部英米2回生 文学部文財2回生 人間人社2回生	担当者 溝口 健司
授業テーマ 言語の本質を探る。		
授業の概要と目標 宇宙論および進化論の観点から言語の本質に迫る。言語は認識の反映であり、認識は宇宙におけるひとつの現象として根源的には物理法則に支配されている。空間が重力で歪むように、言語や認識は例えれば注意力あるいは無意識の力によって歪む。また、宇宙誕生以来の組織化の結果として発生した生物が進化する過程のなかで、言語は情報を受け取り、情報を操作する道具として経済性にすみずみまで支配されている。この授業では、<物理的存在である物質宇宙>と<認識の産物である言語>にどのような関連あるいは連続性があるのかを探る。		
評価方法 学期末の不定期試験、および質疑応答・討論などにおける発言の質・量によって評価する。		
テキスト プリントを配布する。	著者	出版社
参考書 『宇宙・エントロピー・組織化』 『ユーザー イリュージョン 意識という幻想』	著者 H. リーヴズ T. ノーレットランダーシュ	出版社 国文社 紀伊國屋書店
授業スケジュール・内容 基本情報を共有した時点で必要に応じてテーマに関連する討論をおこない、参加者全員の理解の深化を図る。 1. ビッグバンから言語まで 2. 言語の構造と宇宙の構造 3. 生命と意識の誕生 4. 組織化と方向性 5. 快と不快：認識システムの解釈 6. 言語とはなにか？ 7. 討論 8. 意識的認識と無意識認識 9. 言語に意識は必要か？ 10. 偶然は存在するのか？ 11. 心身の自由はあるのか？生存に意識は必要か？ 12. 意味と価値の発生：「生きる意味はあるのか？ないのか？」 13. 討論 14. 質疑応答 15. 不定期試験		